

資料活用能力を育てる学校図書館

鹿児島市立吉野小学校
教諭 篠崎 千賀
学校図書館司書 稲富 奈緒

1 はじめに

本校は鹿児島市北西部の住宅街中心に位置し、今年で創立154周年を迎え、児童数1103名、45学級（特別支援学級11学級を含む）という、市内でも有数の大規模校である。

校内には島津藩の薬草園が周辺にあったことを物語る、樹齢約300年を超える「アキニレ」の木が児童を見守っている。この木は鹿児島市の保存樹にも指定されている。

☆令和4年度第68回全九州学校図書館コンクール文部科学大臣賞受賞

バリアフリー図書をそろえた
りんごの棚コーナー



2 読書活動の実践

(1) 図書館の環境整備

- ・季節に応じた本の展示
- ・バリアフリー図書→りんごの棚設置（LLブック・マルチメディアデジ図書）
- ・読書バリアフリー体験セットの活用（文字・活字文化推進機構提供）
- ・時事に関連した展示（図書館を使った調べる学習コンクール入賞作品展示等）



(2) 質に繋がる読書

- ・オリエンテーション内容（学年ごとに教科書を中心とした学習内容）
- ・キーワードビンゴ（教育課程を基に学年ごとにキーワードを設定、図書館内から目的の本を自分で探し出すスキルを身につける）

・R5年度・・・年間総貸し出し冊数 195,279冊（一人平均171冊）

R6年度・・・年間総貸し出し冊数 219,911冊（一人平均195冊）

オリエンテーション内容

1年生	図書館のきまり
2年生	本の並べ方・図書館の工夫（分類）
3年生	本の分類（3ヶ所）
4年生	調べ学習（百科事典・国語辞典・漢字辞典）
5年生	十進分類法・著作権・検索キーワード
6年生	公共図書館活用（WEBサイト利用法）

3 読書の表現方法

(1) 23日は「家読の日」取組

- ・毎月23日は全学年で「家読」に取り組み、学年に応じた様式を設定

(2) POP制作

- ・ポプラ社主催「全国学校図書館POPコンテスト」（4年生以上）

(3) 読書感想文・読書感想画

- ・青少年読書感想文コンクール（夏休みに読書感想文相談会を実施）
- ・西日本読書感想画コンクール（教育課程に位置付けて全学年で取り組む）

(4) 読書ゆうびん

- ・鹿児島市立図書館の「読書ゆうびん展」に出展
- ・「くじ付き読書ゆうびん」→友達におすすめの本を紹介し、読んだら感想を伝え合う活動

(5) 薬草図鑑

- ・学校敷地内にある薬草園跡地の石碑を児童へ伝承する活動
- ・ロイロノートを活用し、石碑に書かれている薬草について図鑑を使って調べる活動

4 学習情報センターとしての取組

(1) ICT を意識した取組

- ・ロイロノートを活用した図書館活動(授業資料支援, 図書館だより・図書館だよりクイズ等)
- ・「カーリル蔵書検索」の導入(学校図書館支援プログラムの活用)
- ・デージー子どもゆめ文庫の活用→視覚・聴覚障害児対象 (公財)日本障害者リハビリテーション協会
- ・鹿児島市電子図書館
- ・Sagasokka(まなびポケット活用)
- ・すくーる373る体験(R6年度経済産業省働き方改革助成金活用)
- ・電子版朝日小学生新聞体験

5 読書イベント

- ・図書委員会(おすすめの本棚・読み聞かせ・クイズ大会・他委員会とのコラボ・正月おみくじ等)
- ・夏休みイベント 読書感想文相談会

- | | | |
|----------|------|--------------------------------|
| にじいろのじかん | R5年度 | ① 水族館獣医さんおはなし会(かごしま水族館) |
| | | ②「本と声の間」吉野中学校放送部 読み聞かせ&ワークショップ |
| | R6年度 | ①「本と声の間」吉野中学校放送部 読み聞かせ&ワークショップ |
| | | ② 平川動物公園学芸員おはなし会 |
| | R7年度 | ① 鹿児島地方気象 大雨防災ワークショップ |
| | | ②「本と声の間」吉野中学校放送部 読み聞かせ→台風の為中止 |

- ・読書うんどうかい(10月実施)
- ・近隣小中学校との連携イベント(ビブリオバトル・図書館紹介)
- ・読書まつり(11月読書月間)
- ・絵本作家サプライズ訪問(R5年度 絵本作家サトシン氏)



6 保護者・地域との連携

- ・家庭読書の推進(毎月23日は「家読の日」読書ファイル記入→POP形式)
- ・あきにれボランティア(保護者・地域のボランティアによる読み聞かせ)
- ・「読書ゆうびん」は近隣小中学校の作品と一緒に、吉野公民館にて展示

7 成果と課題

(1) 成果

キーワードビンゴの導入により, 好きなジャンルに偏った読書から様々な分類の本を手にする読書へと変化してきた。また ICT の活用により, タブレットを効果的に活用した読書活動を行うことができるようになってきた。

(2) 課題

人数比に対して資料が不足しがちな為, 様々なジャンルの資料を用意する必要がある。

ICT を活用することで生じる新たな著作権指導も含め, 学習・情報センターとしての機能の充実も図る必要がある。